



立ちや、浸水被害が発生しやすい地域の特徴を理解し、被害の軽減に取り組みましょう。

状況

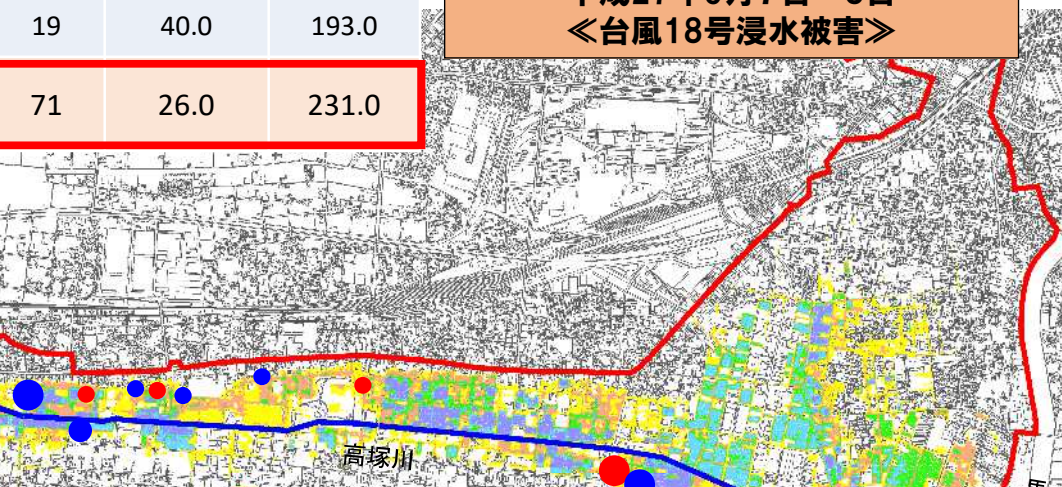
的な要因、宅地化、局地的豪雨の発生などにより、近年浸水被害が発生して

被害 床下 (戸)	最大時間 雨量 (mm)	総雨量 (mm)
96	64.0	199.0
0	34.0	95.0
19	40.0	193.0
71	26.0	231.0

浸水深	
 	0.25m未満
 	0.25m以上0.5m未満
 	0.5m以上0.75m未満
 	0.75m以上1.00m未満
 	1.00m以上

戸数	床上	床下
1～5	●	●
5～10	●	●
10以上	●	●

平成27年9月7日～8日
《台風18号浸水被害》



浸水被害に対する抜本的な河川改修には、膨大な費用と時間を要す。減に向けて河川・農地・下水道・都市計画・道路・公園などの各行政して**緊急に実施する行動計画がアクションプラン**です。

計画は、PDCAサイクルにより、しっかりと効果を確認しながら進めていきます

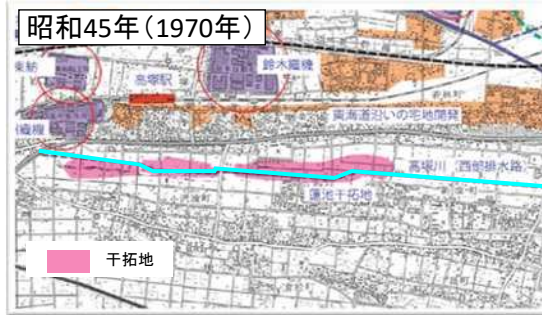
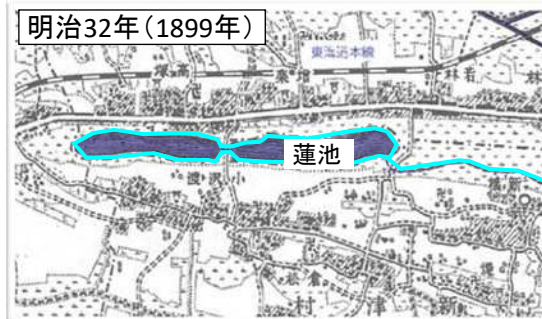
高塚川の成り立ち

高塚川流域は水が溜まりやすい**窪地地形**になっています。

明治32年頃は、“蓮池”と“沼田池”という池があり、水路を通じて馬込川と繋がっていました。

戦後、水田開発の為に蓮池や沼田池は干拓が行われました。その中で2つの池と馬込川を結ぶ用排水路として高塚川は整備されました。

※新橋1号排水路(高塚川)及び篠原15号排水路(西部排水路)を「高塚川」と表記します。



浸水原因

長い時間、**たくさんの雨**が降り続けました。

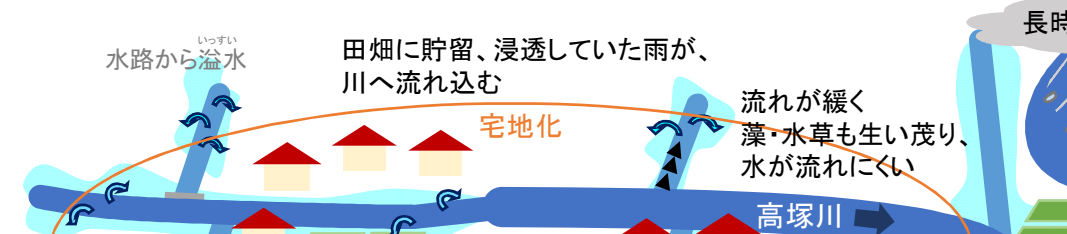
馬込川の水位が高く、高塚川からの**自然排水ができにくい状況**でした。

高塚川は農業用排水路として整備されたために、河川断面は小さく**水を流す能力**が不足していました。

高塚川の勾配は緩く、藻・水草も生い茂り**水が流れにくい状況**でした。

排水機場の**ポンプ**は老朽化して排水能力が不足していました。

宅地化が進んで、田畑に**貯留・浸透**していた雨がすぐに、**川へ流れ込む**ようになっています。



の対策メニュー

- 川の改修
- 川の改修(河床掘削)
- 排水ポンプの更新(田尻排水機場)
- 排水ポンプの増強(高塚川)
- 施設整備(下水道施設)
- 施設整備(公共施設)
- 川の維持浚渫
- 川の維持管理(浚渫・草刈・藻の除去)
- 側溝汚泥の収集・処理
- 機場の運転ルール策定、適切な維持管理
- 転換と逆流防止施設の整備(高塚川との合流点処理)
- 化調整区域における集落制度に関する開発許可制度
用基準の見直し
- 貯留
- 防災力の向上(出前講座)
- 防災力の向上(避難訓練)
- 土のうステーション事業
- 時のポンプによる排水
- カメラ・水位計の増設・公開
- に関する情報提供
- 害時の道路情報等を市民へ公開

ハード対策

ソフト対策

高塚川の河床掘削

川底を掘って、水を多く流せるように改修します。
草刈、藻・水草の除去をし、適切な維持管理をします。

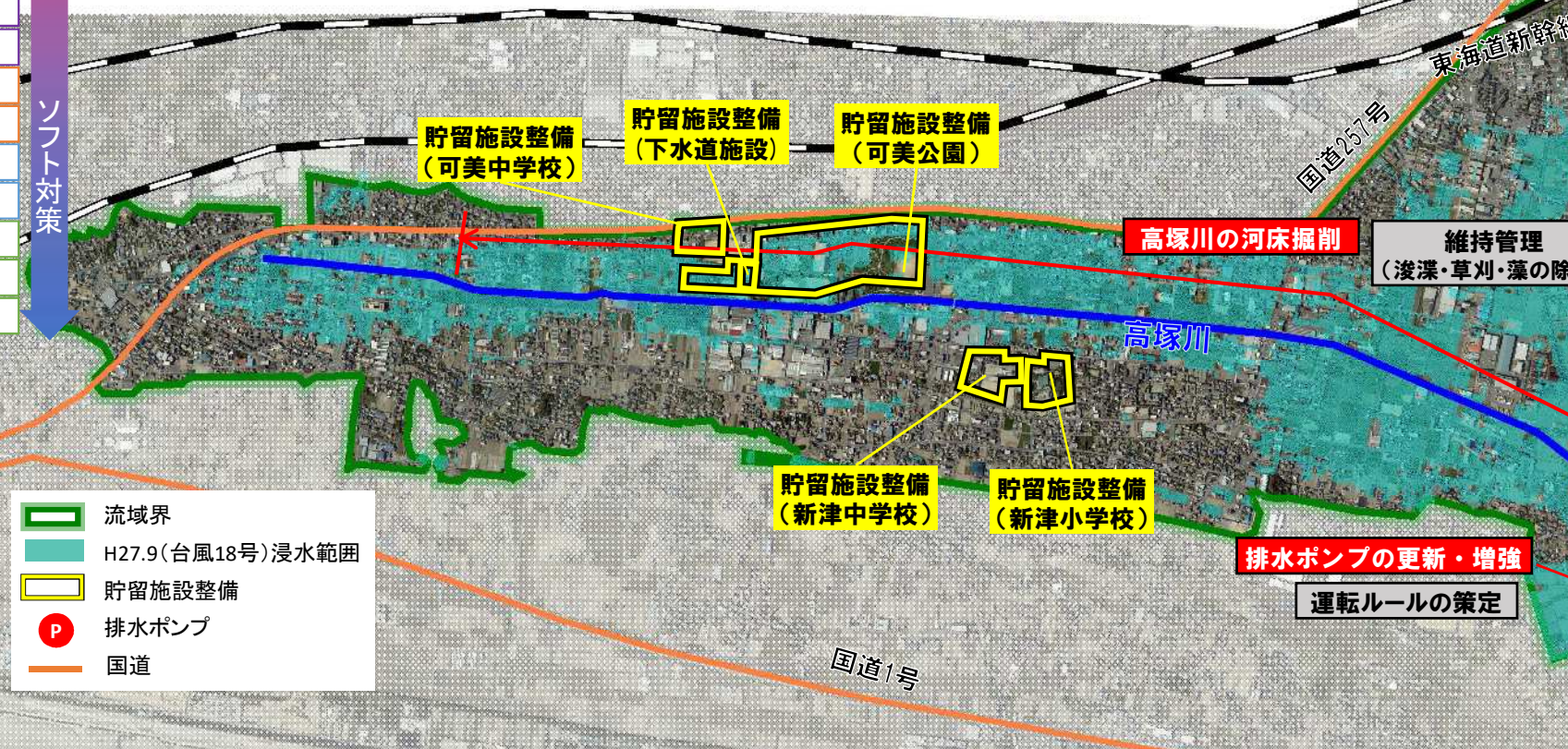
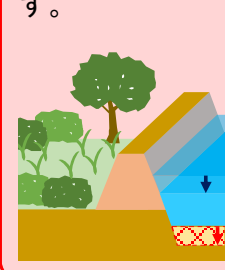
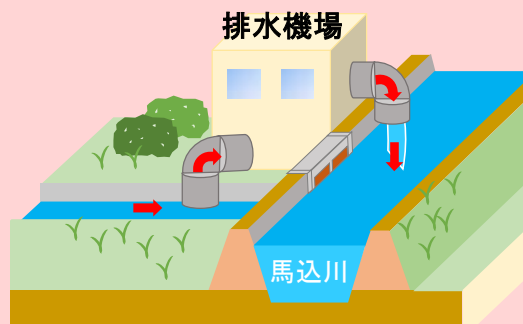


浚渫(しゅんせつ)・・・(川や海岸の)水底の土砂などをさうこと

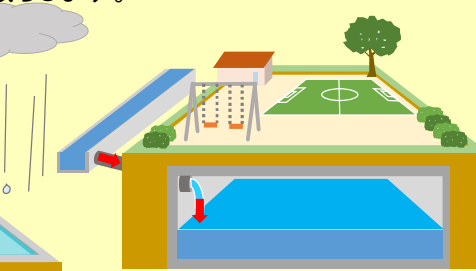
維持管理

(浚渫・草刈・藻の除去)

排水ポンプの更新と増強をすることで、高塚川の水を馬込川へ多く排出するようにします。
効果的な排水をするための運転ルールを作り、適切な維持管理をします。



貯留施設を整備し、大雨時に雨水をため
減らします。



防災力の向上

風水害を想定した
出前講座や避難訓

被害軽減



土のうステーション事業

土のうステーションを
地域に設置し、自らの

情報提供



河川カメラ・水位計の公開

河川状況・水位の変化をインター
ネット公開し、避難判断材料を住民

浜松市南部
総合的治

《アクションプラ

浜松市土木部河川
課 電話 430-8652 浜松市